

中島跡

この島は、平安時代（794–1185）に書かれた庭園に関する最初の学術書、「作庭記」の庭づくりの方法に則って造られた島で、舞鶴が池の中心近くに位置しています。

作庭記は、平安時代(794–1185)の書籍で、立石や島、池、滝、川など日本庭園の設計や造園について詳細に言及されていました。

中島には、鉄鑄宝篋印塔（鉄塔）が置かれてありました。現在それは、毛越寺の宝物館に展示されています。観自在王院の池はこの寺が荒廃したあと、水田として使われましたが、この中島自体は水田化しませんでした。発掘作業中には板碑が見つかり、この島が墓地として使用された時代があったことを示唆しています。